

オーストラリア体験記



オーストラリア体験記

宮本泰治

はじめに

2006年の8月にオーストラリアの北東部ケアンズ、内陸部のほぼ中心部にあるエアーズロックとその近くにあるアリススプリングス、南東部のシドニーに行ってきました。今までに数回海外に行ったことは団体で、あるいは友達と一緒にということではあったのですが、今回は一人で初めて行ったので、いろいろ大変だったような気がしましたが、今振り返ってみればよい体験をしたと思っています。当初は学会でシドニーにしか行く予定はなかったのですが、せっかくオーストラリアに行くなら！ということで、思い切ってどこかに観光に行こうと思い、いろいろ検討を行い、その結果として上記3つの地域に行くことに決めました。その中でもアリススプリングスで参加したコンチキ(contiki)ツアーと呼ばれる外国人と一緒にバスで観光地を巡るツアーはとても印象深かったです。オーストラリアに興味を持っている人、コンチキツアーに興味を持っている人、海外旅行に興味を持っている人などに何か有益なことがあることを願って、私のオーストラリアでの体験のいくつかを以下に述べたいと思います。私のオーストラリア全体の旅程が成田 ケアンズ アリススプリングス シドニー 成田でした。以下の3つの構成でその体験を述べたいと思います。

- ・ケアンズ
- ・アリススプリングス（エアーズロック含む）
- ・シドニー

ケアンズ

成田からアリススプリングスに向かう際、ケアンズを経由することになっていました。そのときの次便乗換えまでに時間が丸1日以上あったのでケアンズの周辺観光をすることにしました。そこは熱帯雨林でも有名なのですが、その中の一つにその熱帯雨林の多くを見渡せる『スカイレール』と呼ばれるケーブルウェイがあります¹⁾。今回はそこを中心に観光しようと直感で決めました。ただ、そのケーブルウェイだけでなくクラング・シーニック・レイルウェイと呼ばれる列車もあるらしく、それにも乗ってみたかったのでそれにも乗ることにしました。まずケアンズからその列車に乗り、熱帯雨林のテーマパークがあるクラングという町に行き、その町内観光をしてから、スカイレールに乗り、バスも用いてケアンズに戻るという旅程にしました。8月の季節というのはオーストラリアでは冬にあたるのですが、半袖のシャツなど2枚位着ていればだいたい過ごせるようなあんまり寒くない地域だったと思います。

ケアンズ～クラング

夜明け前早朝5時半位に空港に着いてから、ケアンズ市内に行くバスを空港内で探し、宿泊先ホテルまで送迎してもらい、ホテルに荷物を預けてから下記の図1に示すケアンズ駅に徒歩で向かいました。列車のチケットを購入する際は英語ですか、と思いつついざ買う時、販売員さんは私を見て日本人と判断し、さっきまで他のお客さんと英語で対応されていたのに突然、その対応が日本語になって、私は安心したと同時になんかこれでは日本と同じと思い拍子抜けもしました。販売員さんはそのとき2人いて、一人は西欧系の方、もう一人の方は日本語が流暢だったのでたぶん日本の方だったと思います。そんなこんなで図2に示した列車も来たので乗り込んだのですが、私が乗ったのは列車の進行方向から比較的後ろの方で8人乗り木製の明るい黄土色のボックス席で通路は端に寄っていました。日本では普

通 4 人乗りのボックス席が二つあって真ん中に通路があるのを見る機会が多いですが、それとは違いました。親子 3 代で乗車している日本人家族、西欧系のご年配の方々、若いカップル等いろいろな人がいました。その列車の線路は溪谷に沿って設置されており、この線路を設置するのは大変だったのではと思いますが、実際にこの鉄道が開通されるまでにはいろんなストーリーがあったみたいです。ちなみにここにはバロン滝という 265m の長い滝がある²⁾ のですが、私が観光した時期が 8 月でその時期は降雨量が多くなく滝を流れる水量は多くありませんでした。また来る機会があれば、降雨量が多い時期あたりに来たいです。



図 1 ケアンズ駅



図 2 クランダ・シーニック・レールウェイ

クランダ内

クランダには芸術家の作品、民芸品、アロマグッズなどさまざまなものが売られている店があるだけでなく、動物園、熱帯雨林のテーマパークなどもあります¹⁾。どれも興味を引くものだったのですがここでは動物園について体験したことを以下にいくつか述べたいと思います。動物園ではワニ、ワラビー(カンガルーに似てる?)、特にワラビーは放し飼いにされていて、触ろうと思えば触れるんじゃないかと思う位、距離が近かったです。それらもよかったです。図 3 に示すコアラもいて、とてもかわいかったです。またコアラの親戚に分類される図 4 に示すウォンバット¹⁾ も見ました。図 4 のウォンバットはとてものんびりしたように見えました。後でわかったのですが実は走り出すと最高時速 40km になるらしくカールルイスなどの陸上選手よりも速いのかと思い、びっくりしました。



図 3 コアラ



図 4 ウォンバット

クランダ～ケアンズ(スカイレール)

スカイレールはカラボニカレイクス駅とクランダを結ぶケーブルウェイで世界自然遺産に登録された熱帯雨林の上を総距離世界最長 7.5km にわたって運行しています¹⁾。スカイレールのチケットは前述のケアンズからクランダへ行く列車のチケットと一緒に購入しました。前述のクランダ内の観光でスカイレールに乗る時間ぎりぎりまで観光していて、来ると思っていたバスがなぜか来ませんでした。スカイレールに間に合わせなければと思い、その乗り場まで 15 分位走ってなんとか時間に間に合いました。しかしながらその実際は、スカイレールは一台 4 人乗りで別にその指定された時間通りに来ないと、乗る順番が遅くなるということだけだったので、そんなに時間にきちんと間に合わせる必要がなさそうということがわかりました。少し走って損したと思いましたが、この日の旅程は誰かに決めてもらったものでなく、自分で決めたものなので、もしかしたらホテルに帰るのが遅くなる、あるいは最悪当日に帰れなくなるかもというリスクもないこともなかったので、しょうがないのかなと思いました。スカイレールからの熱帯雨林の景色はとにかくよかったです。360°どこを見ても、木しかないというような状況もありました。図 5 にその一部を示しますが、そのときは思わず一緒に乗っていた知らない人に All direction is tree とか英語にもなっていない言葉を言ったりしてしまいました。またあるときは、図 6 に示したような東側に熱帯雨林がなく、ケアンズの東海岸を一望できる景色もあったのですがそれも良かったです。そのときにスカイレールの中で話した人の中にケアンズが地元の人もいたので、ケアンズでおいしいものと何って聞いたらダンディーズと呼ばれるクロコダイルとかバッファローとかが食べられる店を勧められました。



図 5 熱帯雨林



図 6 ケアンズ東海岸の景観

宿泊先～夕食

バスを使ってカラボニカレイクス駅からケアンズ市内にあるホテルに着き、チェックインしたのですが私の泊まる部屋は 6 人共同でした。自分以外にどんな人がいるのかなあと思いました。一番話した人はメルボルンから来たオーストラリア人で物流のセキュリティ関連の仕事をしているらしく 3 週間位ケアンズに滞在されるということでした。彼が突然、ライターを出したのでタバコでも吸うのかと思ったら、そうでなく、液体の入ったペットボトルに突き刺してある金属棒の、そのペットボトルから露出した部分を、ライターの火であぶっていました。あぶられた金属棒の熱が棒全体に伝わり、ペットボトル内の液体が加熱され、その結果としてペットボトル内の液体が沸騰しました。いくらか沸騰した後、

彼はそのペットボトルのキャップを取り出てきた蒸気を吸っていました。この光景を最初に見た時、私は驚いて、他の宿泊者とも顔を見合わせて一緒に首をかしげたりしました。しかし、彼があまりにも自然に吸っているので、たぶん法的に問題のないタバコのようなもの一種なのだと思います。

当初は宿泊者の誰かと一緒に夕食でも食べたいと思っていたのですが上記のことで、あまり関わりたくないと思ったので、結局、さきほど紹介してもらった店に一人で行くことにしました。クロコダイル、カンガルー、バッファローなどを食べたと思いますが、私はあんまり味とかよくわからないのですがクロコダイルは鳥みたいな味でとても意外でした。バッファローはとても味が濃かったです。それに比べてカンガルーはあまり印象的な味でなかったような気がします。図7に示しましたように、クロコダイルを食べたという証明書をそのお店

から頂きました。後、夜にナイトマーケットにも行きました。そこにも日本人の販売員さんの方もいて、けっこう日本人はいるなぁという印象でした。また、先ほどの夕食ではあんまり量は多くなかったので、そこでケバブというクレープのような形で中身は肉、野菜 etc いろいろ入っている物でその値段はあんまり高くなくおいしかったです。



図7 飲食証明書

アリススプリングス

映画『世界の中心で愛をさけぶ』のロケ地にもなったエアーズロック(ロケ地になったのは正確にはたぶんエアーズロックでなく、その周辺でだと思います)は、世界最大級の一枚岩で世界自然遺産に認定されていて今回のオーストラリア観光で一番行ってみたい場所でした。このエアーズロックの観光を含んだコンチキツアーを探し、その結果としてアリス&ウルル6日間というツアーにエアーズロックが含まれていたため、そのツアーに参加することに決めました。このツアーの6日間でいろいろな場所に巡ったのですが、ここではエアーズロックとアリススプリングス近郊にあるオーストラリアのグランドキャニオンと呼ばれるキングスキャニオンに観光したことで、私のコンチキツアーでの体験を以下に述べたいと思います。この地域はケアンズと違って日中は暑く、朝、夜は寒いという状況でとてもじゃありませんが深夜、早朝時は半袖シャツ2枚で過ごせるような状況ではなかったです。

エアーズロック

アリススプリングスの南西にあるエアーズロックは周囲約9km、地上からの高さ348mの世界最大級の一枚岩です。この岩は砂漠のような地帯にポツンとあるので、夜明け太陽が昇り始めた時はこの岩だけが照らされます。このエアーズロックの岩肌の見え方は太陽光によって七色に変化し、特に早朝の日の出の時(サンライズ)と、日が暮れる時(サンセット)が最も美しいと言われています¹⁾。それらの観光は主要なものの一つとなっており、コンチキツアーにもそれらの観光は含まれています。以下にサンライズとサンセットでの観光についてそれに関連したことも含めて体験したことを述べたいと思います。

サンライズ

日の出の時間は早朝なので、その日の前日にエアーズロックの近くにあるエアーズロック・リゾートに泊まってから、そこに行くという日程でした。ツアー二日目にアリススプリングスから340kmという

およそ東京 - 山梨往復位の距離の道のりを経てエアーズロック・リゾートに到ります。その移動中のバス内から見える周りの景色は、砂漠に近い荒野で、その景色がずっと続いていました。そのリゾートはとても綺麗で、砂漠に近い荒野にこのような施設を作るのはとても大変だったのではないかと思います。そのリゾートに着いてから、その敷地内に芝生がけっこうある所があったことも理由の一つだったと思うのですがそこでコンチキのメンバーと一緒にラグビーみたいなゲームをしました。ボール持っている人が敵にタッチされた時点で、その場から動けなくなる(パスは可)というようなルールを設けて、男女合わせて、4対4位の人数で行いました。何人かは靴と靴下を脱いで裸足になって駆け回ったりして、けっこう本気モードでした。試合は白熱してとても楽しかったです。それからリゾート内を散歩しました。翌日、朝4時~5時位には起床しなくてはならず、早く寝ようと思っていたのですが、結局、コンチキメンバーと飲んで騒いで、寝始めたのは結局1時位だったと思います。その日は同じ部屋にドイツ人の方と一緒にいたのですが、彼のアラーム機能つき時計を目覚まし時計として用いて、朝なんとか起きてエアーズロックの日の出を観にいきました。そのときのエアーズロックの様子を撮った写真を図8に示しますが、夜が明けていない中、エアーズロックが太陽光に徐所に照らされていく様子はとても綺麗でした。一応写真を撮りましたが、やはり直接観ないことにはこの良さはなかなか伝わりにくいのかなというのが率直な感想です。



図8 エアーズロックサンライズの景観

サンセット

サンセットを観に行くときは、コンチキツアーのメンバーは全員、ドレスアップをしていくことになっていたと思います。私の場合、そのコンチキツアーのための準備を日本で行っているときに、ドレスアップの意味はある程度、正装だったらいいのかなと思っていました。そのドレスアップについての話をツアーマネージャーがアリススプリングスからエアーズロック・リゾートに向かっている途中で何回かアナウンスしてくれていたと思います。しかし、私はツアーマネージャーの英語があんまり理解できていなかったなので、その情報に気づくことができずそのリゾートに着く間際になってやっとそのことがわかりました。そのときのドレスアップの意味というのは、別に正装という意味ではなくそれぞれが好きな格好をすればいいというものだったと思います。みんな、おのこの好きな格好をするための小道具、衣装のようなものを購入する機会は、そのリゾートに向かう途中で休憩した場所にある大型ショッピングモールにありました。したがってそこで必要な物を揃えればよかったのですが、私の場合は、そこで揃えなかったのが、エアーズロック・リゾートで揃えなくてはならない状況になりました。エアーズロック・リゾートはとても快適なリゾートだと思いますが、さすがに大型ショッピングモールのような品揃えはなく物が揃えられなかったのが、どうしようかなと思い巡らしました。だいたい、その好きな格好というのもどれぐらい真剣にやるのか？と思ったりもしました。気休めでやる程度なのか、それと

も？。どの程度がよくわからなかったのですが、自分自身の思う、範疇で行うことにしました。その格好が下記に示した図9の写真です。このときの格好のイメージは日本をいづらか意識して忍者にしました。学会のために持参したガムテープを用いて、刀を作って、衣服をまとめるのに用いた風呂敷で、自分の顔周辺を覆って、服は黒いジャケットとズボン、またこのツアーで買ったショルダーバックを刀のさやとして、最後にサングラスをかけて自分自身のことをコンチキ忍者と名乗っていました。この格好について、ツアーマネージャーさんとバスドライバーさん、同じ部屋で寝ていたドイツ人さん etc 何人かの方は笑っていました。(笑)他には、デビル、妖精、パジャマ姿、サッカー選手のベッカム、王様、蜂など、いたと思います。気休めにちょいやっている人もいれば、けっこうまじめにやっている人もいました。私はどちらかという、ちょっとやりすぎだったような気がします。そんなこんなで、日が暮れていくときのエアーズロックの様子を見ていたのですが、これもズバリ素敵でしたが、やはり、下記の写真では、伝えきれないです。ほんと、素敵な景色でした。



図9 エアーズロックサンセットの景観

キングスキャニオン

キングスキャニオンはアリススプリングスの南西 240km の所にあり、中央オーストラリアで最も壮大な光景をもつといわれる峡谷です。切り立った崖の高さは最高 270m にものぼり、岩肌はクリーン色から深紫色まで実にさまざまな色を見せます。そのような様子がオーストラリアのグランドキャニオンと呼ばれる所以となります¹⁾。下記にキングスキャニオンで撮った写真2枚を図10、11に示しますが、この景色もエアーズロックに劣らず、とても良かったです。どちらもその見晴らしの良い所の一つで撮った写真です。下記図10に示す写真に写っている2人は私と、コンチキメンバーの1人なのですが、その冗談ですが、お互いが愛し合っているという設定で抱き合っている所を写真に撮ってもらっていました。なんかこのときはコンチキメンバーのほとんどが感激！?(笑)していて、記者会見みたいに2人は写真をいっぱい撮られていたような気がします。ただ持参したカメラが親から借りた物で、そのカメラはあまり広い範囲、写真を撮ることができず、そのまま見た印象を撮ることは難しいのではというのが率直な感想です。どの景色もスケールが大きかったので、もっと広い範囲を詳細に取れるようなカメラがあればいいなと思いました。少し話がずれるのですが、リップクリームを持参するのを忘れてしまったおかげで、これまでの私の人生の中で一番、唇が乾きました。というか、もう水分がほとんどなく皮膚が割れてしまい、ツアーマネージャーさんにとっても心配かけました。リップクリームをくれたコンチキメンバーさんに本当に感謝です。ケアンズやシドニーでは、まだ大丈夫でしたが、中央オーストラリアは本当に乾いています。必ず、リップクリームなど、保湿のための準備をしましょう。



図10 コンチキメンバーとの写真



図11 キングスカニオンの景観

私のコンチキツアーでの体験

コンチキツアーとは？

コンチキツアーは18歳から35歳までの若者を対象とした国際的なバスツアーで、その起源は今から40年以上前にヨーロッパを一人で旅していたニュージーランドの若者が一台のミニバンをレンタルして一緒に旅行に行きたい人を募集し、12週間かけてヨーロッパ諸国を旅したのが始まりと言われています³⁾。外国人の人と話してみたいという思いから、このツアーに参加しました。

私がツアーに参加した時の状況

私はアリス&ウルル6日間というコースに参加したのですが、このコースは他のコースの一部になっています。なので、ある人は25日間コースであったり、ある人は、11日間コースだったりとそれぞれです。したがって私が参加した時に同時期にツアーに参加し始める人もいれば、既に参加中の人もいますし、そこでツアーが終わるとい人もいます。このような状況なので、私が参加した時点でもうとても仲良くなっている人達もいました。私がツアーに参加したときの参加人数は20人以上いたと思います。それぞれのメンバーの出身国は、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ドイツ、イタリア、スペイン、イギリス、アイルランド、オーストラリア、日本で、アジア系は私、一人でした。職業別に見ると

大体が学生だと思いますが、学生の専攻で言うと、化学、生物、哲学、医学、教育、法律、職種で言えば、就職支援に関連する仕事、チョコレート販売に関連する仕事、コンピュータに関連する仕事、小学生の先生など、いろんな方がいました。カップルで参加された方も数組いて、中には新婚旅行で参加されているカップルもいました。参加している学生の滞在期間はだいたいみんな長くて、大体 25 日間コースに参加する方が多かったと思います。一方で、このツアーに参加する期間は私と同じ 6 日間コースですが、このツアーが終わったら家族とオーストラリアで 1~2 ヶ月バカンスを取るという方もいました。けっこうみんな長く旅行するみたいです。このツアーは私の時はツアーマネージャー 1 人、バスドライバー 1 人で行われていまして、共にオーストラリア出身の方でした。ちょっと意外だったのが、ツアーの 2 日目から、突然ツアーに参加し始める方も 2 名いました。飛び入り参加もありみたいです。

コンチキツアーで感じたこと

私が体験した範囲でそのツアーに参加して良かったこと、困ったこと等を以下に述べたいと思います。

良かったこと

なかなか行けないような店に行くことが出来たこと

西部劇に出てくるような扇型のドアのような入口のある居酒屋に行くことができました。例えば、私一人、日本人の友達と一緒にですとなかなかその地元の居酒屋に行くというのは抵抗があると思うのですが、ツアーのメンバーと一緒にだとあまりそのような抵抗はなく、気軽に行くことができました。

ツアーマネージャーの英語があまり聞き取れなかったこと

前述のサンセットの時、ツアーマネージャーの英語が聞き取れなかったおかげでドレスアップの準備をし忘れしました。そのおかげで私が持参した身の回りにあるものだけで、用意しなくてはいけないという状況になり、その結果としてコンチキメンバーに必然的にコミュニケーションしないといけない機会が持てたことです。というのは、ガムテープで刀もどきを作ろうと思っていたのですが、そのときにどうしてもカッター、あるいははさみが必要でした。それではさみを借りるのをメンバーに頼みに行くときに話す機会を持てたりしました。

写真を撮るときにピースをするのは日本人だけらしいということを知れたこと

写真を撮るときに、欧米の人はピースをする習慣がほとんどないらしいです。だから、メンバー達になぜ、ピースをするのかと聞かれました。そういえば、なぜするのかというのは今まで考えたことなく、言われてみて不思議だなと思いました。そのときは、日本人は平和(ピース)が好きだからみたいなことが関係しているかもと言いました。誰か、本当の理由を知っている方がいれば、ぜひ教えてください。

コンチキツアーメンバーだけでなくほかの外国人の方とも交流を持てたこと

先ほど西部劇に出てくるような入口のある居酒屋に入ってある程度お酒が進んでから、ステージがあってみんな、きままにダンスしていたので、私も周りを見ながら真似しつつ参加していたのですが、そのときにコンチキメンバー以外の人とも挨拶をして、さらにはある人には簡単なステップを教えてもらったり、しまいには社交ダンスっぽいことまでやったりとたぶん日本ではなかなか味わえないことを楽しめたりしました。

生の英語に触れることができたこと

例えば Nice to meet you.

を省略して Nice 2 meet U.

と表現したりすることがあるということです。そのツアー日程予定の張り紙が宿泊先のある場所に掲示されていたりするのですが、そこに書いてあることのほとんどが省略を含んだ形で書いてあって、最初

はよく分かりませんでした。

また、その省略の仕方でもオーストラリアだけの言葉もあるみたいです。例えば、サングラスをサニーと呼ぶらしいです。この言葉はオーストラリアだけということコンチキメンバーのオーストラリア出身の方から聞きました。

また、このコンチキツアーの一つにキャンプファイヤーをする機会があるのですが、そのときに暖炉をコンチキメンバーみんなで囲って、『Never have ever』というお題で、順番に1人ずつ、何かお題に合ったことを言うというゲームをしました。その時にツアーマネージャーの人が、前述のキングスキャンオンでの2人が恋に落ちる所は見たことがないというようなことを言われました。私自身、それを言ったら面白いかなと思って言おうとしていたのに先を越され、しかも順番が迫っていて、どうする!?!と考えた結果、結局、アリススプリングス郊外をこれまでに裸で走ったことがないというようなことを言ってなんとか切り抜けました。

困ったこと

ネイティブの英語になかなかついていけなかったこと

やっぱり、ネイティブの話すスピードは速いので、聞き取るのは難しかったです。加えて、話すのも発音が重要だと言うことを思い知らされました。例えば、コンチキツアーをそのままコンチキといくとあんまり通じませんでした。ツアーメンバーの1人にその発音を聞いてみると、コンティキ、コンテエキ、コンテキというように聞こえました。つづりが『contiki』だからだと思います。

シドニー

人口約400万を数えるオーストラリア随一の大都市シドニー。英国調の街並みとモダンな高層ビル、緑まばゆい広々とした公園、そして入江を行き交うフェリーやクルーズ船...こうした景観が見事な調和を見せる美しい町です¹⁾。ここで私の専門である機械工学に関連した国際会議があり、そこでポスター発表をすることになっていたので行きました。ほとんど、学会に参加してただけで、あまり観光はしていないのですが、それでも少



図12 オペラハウス



図13 ハーバーブリッジ

し観光したので、そのときのことなどを述べたいと思います。シドニーの気候はケアンズよりは寒かったと思いますが、日本の冬よりかははるかに暖かいのではという印象でした。観光した場所は図12、13、14、15にそれぞれ示しますようにシドニーのオペラハウス(図12)、シドニー・ハーバーブリッジ(図13)、それとシドニー大学でした。どれもとっても綺麗でした。その中でも特に、私はシドニー大学が印象的でした。シドニー大学は歴史のある大学であるだけでなく綺麗で、この大学であれば、例えば、国内の某大学だとそのまま4文字のいわゆる大学生活ですが、シドニー大学の場合は、「キャンパスライフ」という響きの良い大学生活を送ることができそうな気がしました。ところである先生のおかげで、シドニー大学のある先生方のお話を伺える機会を頂いたのですが、その中の話題の一つに大学の

教育ということが一つ話題に上っていたのですが、その主旨は大学では学生を大人として扱うべきなのかどうかという所について確か議論されていたと思います。私は先生たちが話しているのをただ聞いているだけでした。後は、そのオーストラリアの先生に自分の研究について簡単に紹介するというのもあったのですが、緊張してあまりうまく言えず、もっと英語を使えるようにしなければと痛感しました。



図 1 4 シドニー大学の景観



図 1 5 シドニー大学の景観

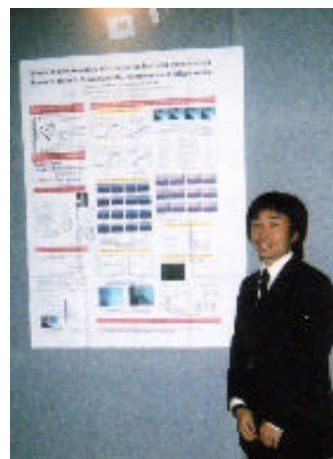


図 1 6 学会ポスター発表

話は変わりますが学会で知り合った学生と居酒屋のような飲み屋に行って、日本人の方とたまたま話したのですが、その人はオーストラリアで看護師になりたいということでした。もう半年位はシドニーに住んでいて、出来れば学校に通って、そのような道に進みたいとのことでした。一方では短い期間、数週間から数ヶ月、語学留学でオーストラリアに来ている方もいました。いろいろな人がいるなあと思いました。

国際会議でポスター発表したときの様子を上記の図 1 6 にその写真を示しますが、2 時間位、自分が貼ったポスターの前で立っていて、人が来たら、説明するというものだったのですが、結構人が来ないかなと思ったらけっこうな数の方がいらっしゃったので、もうとにかく、口だけでなく、ジェスチャーなどもあらゆるコミュニケーションに使えるような手は尽くして、研究の内容を理解して頂けるように努めました。たぶん、おおよその概要は、ほとんどの人に伝えることが出来たのではと期待します。

)シドニー・オペラハウス

シドニーのシンボルの一つであるオペラハウス。シドニーハーバーを疾走するヨットの帆をイメージして造られたといわれるこの斬新な建物は、デンマークの建築家ジョン・ウツソン Jørn Utzon の設計によるものです。しかし完成までは紆余曲折があり、一時

は「未完成交響曲」と皮肉混じりに呼ばれたこともあるようです¹⁾。

)シドニー・ハーバーブリッジ

シドニーハーバーを美しく飾るハーバーブリッジは、湾を挟んで南北に広がるシドニーの街の大動脈です。この橋は 1920、30 年代に吹き荒れた不況対策の公共事業として造られたものです。シングルアーチの橋としては、ニューヨークにあるベイヨン橋よりわずかに 60cm 短いだけで、世界第 2 位の長さ(1149m)です¹⁾。

旅行で困ったこと

シドニーでクレジットカードを落として、結果的に落とした場所が安全な場所だったので悪用されずに見つかったのよかったです。そのカードを使えないようにするために国際電話で実家に電話あるいは E-mail したりしていました。特に E-mail の場合、インターネットカフェなどで行う場合、もちろん、日本語の OS なんて入っていないので、必ず英語で打ち込まなければなりません。考えれば当たり前ののですが、その時気づいていくらかあせったりしました。また、無くしたクレジットカードを使えないようにする手続きはすぐにできたと思うのですが、再発行をするのは、私の場合、使用しているカードの年間維持費がただだったのも関連しているかもしれませんが一週間以上かかるというようなことを言われました。いくら現金を持っていたのでカードが無くても、帰国するまでは大丈夫でした。クレジットカードはパスポートの次くらいに大事だと思うので、今後はこのようなことがないように気をつけたいと思います。

最後に

書き終えた感想としては、コンチキツアーではいろいろな方と知り合えて本当に良い体験をしたと思います。このツアーでは本当にずっと英語漬けでした。そのおかげで頭でなく、体で、英語というものが勉強の一つという意識でなくコミュニケーション技術、あるいは手段の一つであると実感でき、英語に対する見方が変わったような気がします。一方、観光についてはガイドブックに書いてあるようなどちらかという表面的なことしか書けませんでした。書く前はもうちょっと書けるかなと思ったのですが、思った以上にあんまりよく観てなかったことが書くという作業を通してわかりました。次回、またこのような機会があれば、もっと掘り下げて書きたいと思います。最後に私のオーストラリアの旅行全般について多大な御尽力を与えてくださり、またこの原稿を書く機会を与えてくださった芝浦工大生協の旅行カウンターの方に深く御礼申し上げます。特に、私の都合でオーストラリア旅程の変更を度々お願いしたにもかかわらず、そのたびにその旅程の変更および作成等を快く引き受けて頂きまして誠にありがとうございました。

2007/01/16 宮本泰治

参考文献

- 1) 「地球の歩き方」編集室：ダイヤモンド社，地球の歩き方オーストラリア 2005～2006 年度版
- 2) KURANDA SCENIC RAILWAY, オリジナル収集家用情報ガイド
- 3) コンチキツアーパンフレット 06～07